

AIRTIGHT FOAM

■準備作業について

1-1 作業内容、作業範囲の確認。安全带、手袋、保護マスクなどの着用。

■材料の保管及び管理について

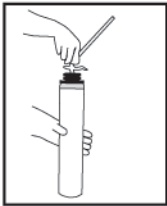
2-1 材料の保管は火気と高温に注意をする。車内や直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かない。材料周囲は雨水の侵入のないようにシートを数枚重ね、乾燥状態で製品は立てて保管をする。

■本作業について

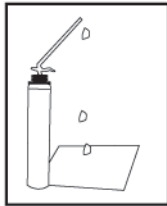
3-1 下地処理は施工部位の埃や砂等を雑巾、ホウキ、小型ブロワー等を用いて取り除く。施工部位の脆弱部有無を確認する。作業通路の整理整頓を確認しながら作業を行う。養生作業は材料の飛散や落下のため施工部位の上下左右をマスキングテープで保護する。下部周辺にはビニールシート等で養生をする。作業通路の整理整頓を確認しながら作業を行う。

3-2 使用準備は下記手順に従う。施工する部位が30mm厚みを超える場合は荒密及び硬化不良防止のため部位に事前に水霧吹きを行って発泡形成を助けること。作業部位周囲に溶接作業や火気が無いことを確認する。

■付属のノズルを使う場合の手順



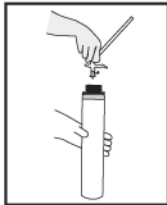
缶本体に付属の2種の充填用ノズルを一旦取り外して、使用するノズルを缶バルブに軽く押し込んで装着します。



中断の際は残液付着に注意をして、余分な液が周囲に付着してしまわないよう新聞紙の上などに缶本体を置くようにします。



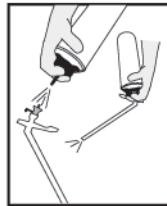
使用する前は缶本体を10回ほど振ってください。(再吐出のときにも缶本体をよく振ってからお使いください)



作業を中断するときは中断後10分以内に汚れたノズルを取り外してノズル内部やノズルカプラをクリーナーで洗浄をします。



ノズル根元を軽く斜めに倒すと液が吐出されます。強く倒すと液は勢よく吐出されますので勢いを指元で加減しながら使います。



汚れたノズルをそのままクリーナーにセットし、クリーナーを吐出してノズル内部を洗浄します。必要に合わせて噴霧洗浄も行います。

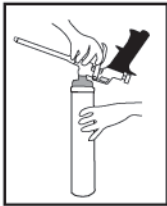


ノズルを離すと液は停止しますがストロー部の残液により若干余分に液の吐出が続くので目的よりも早めに停止をするように心掛けます。



缶本体の液吐出口付近にもクリーナーをスプレー。分解された少量の液を外部に出して洗浄終了。洗浄に関わらず以後は早めに使い切ります。

■別売の吐出ガンを使う場合の手順

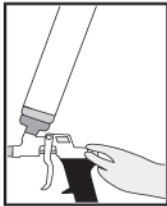


缶本体に付属のノズルを取り外します(無くさずに保管)。吐出ガンの装着部分に真直ぐに素早くねじ込んで装着します。

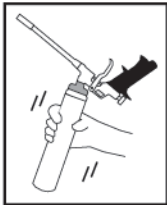


整泡のため重要

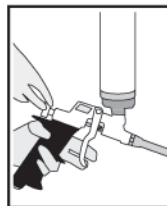
吐出ガン(ATF-008・009)に付属の整泡ストローを2cmほどにカットして吐出ガンの先端に取り付けてください。(ATF-007は極細ノズルを取り付ける)



吐出ガン後部の吐出量調整ネジを一旦右回りに最後まで回して引き金をロックされた状態にします。



使用する前に缶本体を10回ほど振ってください。(再吐出のときにも缶本体をよく振ってからお使いください)

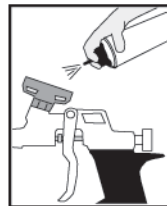


吐出量調整ネジを徐々に左回りに緩めながら引き金を引き、液の吐出勢いを新聞紙の上などで確認してから使います。



飛び散りに必ず注意

缶が空になったらビニール袋の中で手際よく缶を取り外します。中身が残っていると缶を外すときに不意に中身が噴射するので注意。



取り外しを終えた吐出ガンの装着部分へ直ちにクリーナーをスプレーして汚れを落とします。洗浄を怠ると装着部分が詰まります。



吐出ガンにクリーナーを装着して数回引き金を引き洗浄液を噴射。5分程そのまま放置し再度洗浄液を噴射して缶を取り外す。

缶は逆さまになるようにして使う

中指と薬指でノズル根元を引いてノズルを斜めに倒すと液の吐出開始、離すと停止状態。

1cmほど離して液を出す

親指と人差し指で缶を握ります。(もう片方の手で缶を添えると操作が安定する)

缶は逆さまになるようにして使う

吐出ガン本体のグリップ部分をしっかりと人差し指と中指でトリガー(引き金部分)を手前に引くと液の吐出開始、離すと停止状態。

1cmほど離して液を出す

吐出ガンで液を出すときは吐出ガン付属の整泡ストローをカットして先端に付けて使用する

停止状態

吐出状態

吐出状態

停止状態

少量吐出

全開吐出

硬化中の発泡ウレタン

施工面

硬化中の発泡ウレタン

施工面

※塗布後に刷毛引きはしないこと

※自然硬化を待つこと

※カットは内部硬化後に行うこと

■後始末作業について

4-1 完了検査は施工範囲の確認、出来形検査、使用済材料検査を受ける。周囲の清掃作業を行う。清掃後の廃棄物は発泡廃棄物(プラスチックごみ)、空き缶(金属ゴミ)を分別して全て場外排出処分とする。